

# 日本消防



- ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」好評放送中！
- 第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会
- 第30回全国消防操法大会・激励交流会
- 防災推進国民大会「ぼうさいこくたい2024in熊本」への参加

11  
2024

- 絵 第30回全国消防操法大会・激励交流会  
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」好評放送中！  
第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会・防災推進国民大会「ぼうさいこくたい2024」への参加

巻頭言 「北海道の課題に取組む」	(公財)北海道消防協会 会長 花田 了彰	1
消防大学校消防団長科が来訪	(公財)日本消防協会・総務省消防庁消防大学校	3
日消の動き 新日消会館、いよいよスタート	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	4
第30回全国消防操法大会開催	(公財)日本消防協会	5
第30回全国消防操法・宮城大会 激励交流会 開催 宮城へようこそ！～明日はエネルギー全開で～	(公財)日本消防協会	14
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」出演者紹介	(公財)日本消防協会	17
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」	(公財)日本消防協会	21
特別表彰「まとい」を受賞して 「歴史と伝統を郷土愛で未来に繋ぐ」	香川県 土庄町消防団 団長 山本 昇	23
東西南北（栃木県）「地域から信頼される消防団を目指して」	高根沢町消防団 団長 小林 修	25
東西南北（愛知県）「活躍してます！女性消防団員！」	刈谷市消防団 団長 石原 雅裕	27
東西南北（広島県）「百万一心のまちの消防団」	安芸高田市消防団 団長 角保 雅史	29
シンフォニー（大分県）「未来の消防団～届け！こどもたちへの防火防災のシンフォニー～」	大分市消防団 女性分団 副分団長 小野 梢	31
第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会を開催	(公財)日本消防協会	33
防災推進国民大会「ぼうさいこくたい2024」への参加	(公財)日本消防協会	38
令和6年度(第24回)「防火防災に関する」作文コンクールの審査結果について	(生協)全日本消防人共済会	41
うちの名物団員	北海道、北海道、栃木県、愛知県、岐阜県、広島県、広島県	43
消防団の広場(岐阜県)「持続可能な消防団をめざして」	川辺町消防団 団長 日下部 宏暁	45

編集後記

### 表紙写真説明

「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」

尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄しました。

平成27年度には、「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として、日本遺産に登録されました。

写真提供者：尾道市消防局

# 第30回全国消防操法大会・激励交流会

令和6年10月11日(金)、12日(土)【宮城県仙台市・利府町】

(5頁～13頁に掲載)



# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 好評放送中！ (公財)日本消防協会

(17頁～22頁に掲載)



令和6年  
8月放送分に出演の  
高橋みなみさん

令和6年  
9月放送分に出演の  
徳光和夫さん



令和6年  
10月放送分に出演の  
平野啓子さん

# 第29回全国女性消防団員活性化 とちぎ大会【上段】

令和6年9月19日(木) 【栃木県宇都宮市】

(33頁～37頁に掲載)

## 防災推進国民大会

「ぼうさいこくたい2024 in 熊本」への参加【下段】

令和6年10月19日(土)、20日(日) 【熊本県熊本市】

(38頁～40頁に掲載)



# 卷頭言

## 「北海道の課題に取組む」

(公財)北海道消防協会 会長 花田 了彰



### 1 北海道の紹介

北海道は日本列島の北に位置し、179市町村（35市・129町・15村）で構成され、その面積は、日本の国土面積の約2割を占め、本州の約3分の1、九州の約2倍、四国の約4倍に相当します。

また、北海道の道路実延長は約89,887キロメートルにもおよび、赤道ルートで約2.24周分に相当します。

四方を太平洋、日本海及びオホーツク海に囲まれ、広大な土地を活用して日本の食糧基地を自負するほど第一次産業が盛んで、農畜産業は全国の約14%、漁業は約17%に当たる食料産出額となっているほか、林業においても素材生産量約14%といずれも全国1位であるなど、一次産業を重要な基幹産業として強力に推し進めています。

一方で、第二次産業である製造業では、近年、世界的に需要が高まっている最先端の半導体メーカーの誘致効果により、IT関連企業の参入などといった面でもプラスの影響が現れはじめています。

また、豊かな自然と食の魅力を活かした観光、レジャーなどのサービス産業（第三次産業）では、四季を問わず一年を通じて多くの観光客が訪れ、北海道を満喫されています。

さらに、2030年以降には、北海道新幹線の開業も見込まれており、さらなる発展が期待されています。

しかしながら、その一方では、少子化や人

口流出等に伴う人口減少が続き、現在の北海道の総人口は約509.9万人（令和6年住民基本台帳）で人口ピーク時の平成9年の約569.9万人から10%以上となる約60万人の減少となっており、高齢化とともに深刻な課題の一つとなっています。

### 2 当会の概要

当会は、大正2年に「北海道消防議会」として設立されて以来、111年の長きにわたり、安全・安心に暮らせる地域社会を目指し、住民の生命・身体及び財産を災害から守るために事業活動を続け、現在、206消防団、58消防本部、約3万2千3百名の会員で構成されており、広大な地域を14の地方支部に分け、当該支部によるきめ細やかな活動や支部独自の事業展開も活発に行われているところです。

### 3 北海道の消防団の課題と対策

全国的に消防団員数の減少や団員の高齢化が進む中、北海道においても人口減少と相まって、消防団員数の減少が続いているおり、令和5年10月現在の団員数は、約2万3千2百人で5年前の平成30年との比較でも2千人以上減少しています。

また、道内の消防団員の平均年齢は全国の43.6歳より2歳以上高い45.7歳と高齢化しており、これらの諸課題の解決に向けて、消防団員数の維持、増員と若手・中堅層の入団促進による高齢化の防止のための具体的な取組

みを推し進めていく必要があります。

もちろん、当協会や消防団の個別の取組みには限界があるため、「消防団を中心とした地域防災力の充実強化に関する法律」を踏まえ、道内の行政機関や関係団体との綿密な連携のもと、次のような対策を検討・推進していくことが重要と考えます。

#### ① 消防団員の処遇のさらなる改善

消防団員の任務の重要性や危険性、消防団活動に費やす時間や労力などの負担に見合った報酬引上げの検討や被服等の個人装備品の充実・改善、消防団応援の店の拡充など、さらなる処遇の改善を推し進める。

#### ② 被雇用者である消防団員の支援対策の充実

全国では、被雇用者である消防団員の比率が約73%となっており、第一次産業が比較的盛んな北海道においても約半数が被雇用者であることを踏まえ、消防団協力事業所へのインセンティブの拡充や雇用主である企業等に対する支援金制度の導入、消防団活動休暇の導入など、雇用者：被雇用者双方に対する支援対策の充実を図る。

#### ③ 女性団員や学生団員の増員

全国的に消防団員数が減少する中、女性団員や学生団員は今も増加傾向にあることから、今後も性別や置かれている立場に捉われることなく、地域防災力の中核としての活動や様々な場面での対応についても期待される。

また、学生の若さを生かした発信力や表現力は、若年世代の加入促進にも繋がる消防団活性化の大きな要素ともなり得ることから、女性が活動しやすい環境の整備や学生団員への支援制度の充実などにより、さらなる増員に繋げる。

#### ④ 消防団活動の理解促進

消防団は、災害時だけでなく、平常時でもイベントへの参加や地域コミュニティとの連携など、身近な場所で活躍する場があることを多くの人にPRし、消防団活動に対する理

解を促進し、消防団をより身近な存在として感じられる取組みを進める。

#### ⑤ 消防団応援協定の促進による消防力の維持

消防団員数の減少や高齢化は、消防団としての総合的な活動能力の低下に繋がるものであり、有事の際の活動要員の確保は極めて重要なこととなる。

そこで、消防団においても近隣市町村との応援協定の締結を進めるとともに、地震等の大規模災害時に備え、道内でも札幌圏の消防団で導入されている広域的な応援体制の整備を促進し、総合的な消防力を維持するための取組みを推進する。

### 4 結びに

地域の安全・安心を確保するためには、常備消防や関係機関・団体、そして地域に密着し、要員動員力に優れた消防団との連携が不可欠です。

その消防団が今、団員数の減少や高齢化といった大きな問題に直面しており、北海道においても日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震やこれに伴う津波被害の発生が危惧されている中、消防団員の確保と活動体制の充実強化は、喫緊の課題となっています。

この課題解決には、国や地方公共団体、関係機関による抜本的な対策が求められる一方で、消防団自らが真摯に取組みを進めることが重要となります。

そのためには、何よりも消防団がより魅力のある組織として、消防団員はもとより、地域住民からも認められる存在となることが大切なのではないでしょうか。

北海道消防協会としても道内の消防団や関係機関と連携し、消防団の活性化と充実強化に向けて取組んで参りたいと考えておりますので、関係の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

# 消防大学校消防団長科が来訪

(公財)日本消防協会・総務省消防庁消防大学校

令和6年10月10日(木)、消防大学校消防団長科第86期生29名が日本消防協会を訪問され、同協会の秋本会長は「これから日本の消防－新たな災害環境への対応－」と題して、消防団幹部としてのあり方、各種災害に伴う被害に関する基礎的な情報の把握、防災・減災の基礎的条件整備、消防防災体制の強化について講義をしました。



秋本会長(前列中央)と消防大学校消防団長科第86期生の皆さん



講義の様子

# 新日消会館、いよいよスタート

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

本誌10月号で紹介しましたように、新しい日本消防会館は、いよいよ10月から本格スタートしました。10月3日は、新会館の最初の公式行事として、今年の全国消防殉職者慰靈祭を挙行しました。当日は、新内閣スタートの時に当たり、内閣総理大臣等にご臨席頂くことはできませんでしたが、それぞれ代理の方にご出席頂き、全体として無事に執り行うことができました。この日の慰靈祭は、この機会に全国から消防関係の方々にできる限り出席を頂き、消防関係の皆さんへの新会館お披露目の機会にもしたいなと思っていました。

そのようなことも思いながら、慰靈祭は肃々として執り行いました後、午後は、気分を新たに、新会館建設にお世話になった方々への深甚なる感謝の意を表しますとともに、この新会館を最大限活用して日本消防の一層の発展を目指すという消防関係の皆さんのがんばりを盛り上げたいという気持ちを込めて、新会館完成記念大会を開催しました。この大会の詳細な内容をここで申し上げることは遠慮しますが、消防団ラッパ隊の演奏から始まり、消防団の皆さんの歌、水前寺清子さん、蝶野正洋さんのご参加、平野啓子さんの司会、「稻むらの火」の語りなどで盛り上がったと申し上げてよいでしょう。

さて、これから運営が益々大きな課題です。

まずは、消防関係の皆さんをはじめ、できる限り幅広い、多くの方々にこの新会館に親しんで頂かなければなりません。消防職団員の皆さんは勿論、地域防災体制を担って頂いている女性防火クラブ、自主防災組織の皆さん等もです。国、地方公共団体の皆さんも、消防防災関係メーカー等の皆さん、消防防災関係研究者、報道関係の皆さんもですし、ここまで書きしたら、オール国民の皆さんに親しんで頂きたいですと書くべきでしょうね。

何を素材として親しんで頂くかですが、当然、1,000席のニッショーホール等でのさまざまな魅力的なイベント、会議、研修会等があります。1階の日本消防防災情報センター展示の日本、海外の災害情報、国内各地の多彩な活動事例もありますが、これは更新を繰り返す必要があるでしょう。屋上の全国消防殉職者慰靈碑参拝もあります。6階の「消防人 たまり場」は幅広い消防関係の皆さんの交流の場として、そして、いろいろな情報収集の場として活用して頂かなければなりません。

こうして親しんで頂くためには、会館内のご案内方法、各種イベントや展示物等の工夫、皆さんに喜ばれる日消グッズ販売の検討など、いろいろな対応が必要でしょうね。

そうしたことの積み重ねで、日本消防協会は、消防庁はもとより、他の消防関係団体との協力のもと、微力ですが、現在の諸状況を把握しながら、将来を展望しつつ、我が国消防の益々の発展に、さらには全国地方自治の発展に少しでも貢献できるよう努力しなければならないでしょう。皆様、新会館建設にご支援ご協力頂きましたが、これからもよろしくお願ひいたします。

# 第30回全国消防操法大会開催

(公財)日本消防協会

令和6年10月12日(土)、宮城県利府町の宮城県総合運動公園グランディ・21において、第30回全国消防操法大会を開催しました。

「消防団の甲子園」とも呼ばれるこの大会は、2年に1回開催し、各都道府県大会の予選を勝ち抜いた代表47消防団が、ポンプ車の部、小型ポンプの部の2部門に分かれて、速さ、正確性、規律の正しさを競い合うものです。

今回は、東北地方で初の開催となる大会でありました。そして、今年は地震、台風、局地的豪雨などが続いたことで、各地に大きな被害が発生し、消防団活動にさらに注目が集まるとともに、消防団の装備、資機材の充実、消防活動技術の向上などに一層の取組が進められる中で、白熱した熱戦が繰り広げられました。選手の皆さんには、日頃から積み重ねた訓練の成果を存分に發揮されました。

日 時	令和6年10月12日(土) 9時00分から
場 所	宮城県総合運動公園グランディ・21 宮城県宮城郡利府町菅谷字館40-1
主 催	消防庁、公益財団法人日本消防協会
協 力	宮城県、仙台市、利府町、公益財団法人宮城県消防協会、宮城県消防長会
参加来場者数	約13,000人



入場行進



出場隊集結

## 開会式

大会は、総括指揮者である福岡県新宮町消防団 落石雄一郎団長を先頭に各出場隊の堂々たる入場行進で始まりました。

開会式では、日本消防協会旗入場、森田耕一日本消防協会副会長の開会宣言の後、国旗掲揚を行い、そして、前回大会優勝チーム、鹿児島県中種子町消防団(ポンプ車の部)、福岡県新宮町消防団(小型ポンプの部)からの優勝旗返還が行われました。その後、池田達雄消防庁長官と秋本敏文日本消防協会会长が主催者挨拶を行いました。

続いて、村井嘉浩宮城県知事、吉田義実全国消防長会会長からの御祝辞、熊谷大利府町長からの歓迎の辞、そして、本大会審査長の羽生雄一郎消防大学校校長からの競技上の注意の後、出場隊員を代表して、鹿児島県日置市消防団元吉利之班長による力強い選手宣誓が行われました。



開会宣言 森田日本消防協会副会長



優勝旗の返還



主催者挨拶 池田消防庁長官



主催者挨拶 秋本日本消防協会会长



祝辞 村井宮城県知事



祝辞 吉田全国消防長会会长



歓迎の辞 熊谷利府町長



競技上の注意 羽生消防大学校校長

## 選手宣誓文

### 宣誓

我々選手一同は、先の能登半島地震、並びに全国各地で相次いだ災害の記憶を風化させることなく、犠牲になられた方々のご冥福を祈り、1日でも早い復旧復興を祈念し、家族・仲間・郷土の期待と誇りを胸に、日頃の訓練の成果を遺憾なく發揮し、正々堂々競技することを誓います。



選手宣誓 鹿児島県日置市消防団 元吉班長

## 操法競技

午前10時00分より操法競技が開始され、ポンプ車の部24隊、小型ポンプの部23隊に分かれて、熱戦が繰り広げられました。

### ○ポンプ車の部



操法開始



乗車



ホース延長



放水始め



放水



放水

### ○小型ポンプの部



操法開始



吸管延長



ホース延長



筒先員交代



放水



放水

## ○出場隊を応援するのぼり旗の数々



### 表彰式

羽生審査長から競技審査結果が発表され、引き続き表彰式が執り行われました。ポンプ車の部、小型ポンプの部それぞれの優勝隊（各部1隊）に、消防庁長官賞と日本消防協会会长賞が、準優勝隊（各部3隊）・優良賞隊（各部6隊）には日本消防協会会长賞が授与され、最後に日本消防協会会长特別賞として、優秀選手賞が各指揮者・操作員の合計9名に授与されました。

今大会はポンプ車の部・福岡県新宮町消防団、小型ポンプの部・岡山県高梁市消防団が優勝しました。



ポンプ車の部 優勝隊 福岡県 新宮町消防団



ポンプ車の部 優勝隊 福岡県 新宮町消防団



小型ポンプの部 優勝隊 岡山県 高梁市消防団



## 第30回全国消防操法大会 出場消防団

ポンプ車の部		
出場順	都道府県	消防団名
1	長野県	諏訪市消防団
2	高知県	仁淀川町消防団
3	三重県	伊賀市消防団
4	宮城県	石巻市消防団
5	秋田県	能代市消防団
6	富山県	砺波市消防団
7	埼玉県	行田市消防団
8	栃木県	益子町消防団
9	鳥取県	米子市消防団
10	静岡県	湖西市消防団
11	北海道	旭川市消防団
12	香川県	琴平町消防団
13	山形県	寒河江市消防団
14	徳島県	阿南市消防団
15	熊本県	湯前町消防団
16	茨城県	取手市消防団
17	大阪府	羽曳野市消防団
18	長崎県	壱岐市消防団
19	宮崎県	小林市消防団
20	福岡県	新宮町消防団
21	神奈川県	湯河原町消防団
22	沖縄県	ニライ消防団
23	和歌山县	海南市消防団
24	福井県	大野市消防団

小型ポンプの部		
出場順	都道府県	消防団名
1	愛知県	岡崎市河合消防団
2	京都府	精華町消防団
3	島根県	安来市消防団
4	東京都	大井消防団
5	千葉県	市原市消防団
6	福島県	下郷町消防団
7	愛媛県	伊方町消防団
8	兵庫県	福崎町消防団
9	佐賀県	白石町消防団
10	石川県	能登町消防団
11	山梨県	南アルプス市消防団
12	山口県	阿武町消防団
13	広島県	福山市消防団
14	岡山県	高梁市消防団
15	群馬県	片品村消防団
16	大分県	佐伯市消防団
17	滋賀県	日野町消防団
18	宮城県	石巻市消防団
19	岩手県	洋野町消防団
20	新潟県	聖籠町消防団
21	青森県	階上町消防団
22	鹿児島県	日置市消防団
23	奈良県	広陵町消防団

## 第30回全国消防操法大会結果

### 消防庁長官表彰・日本消防協会会長表彰(優勝隊 各部1隊)

#### ポンプ車の部

福岡県 新宮町消防団

#### 小型ポンプの部

岡山県 高梁市消防団

### 日本消防協会会長表彰(準優勝隊 各部3隊)

#### ポンプ車の部

長野県 諏訪市消防団  
富山県 砺波市消防団  
鳥取県 米子市消防団

#### 小型ポンプの部

愛知県 岡崎市河合消防団  
滋賀県 日野町消防団  
兵庫県 福崎町消防団

### 日本消防協会会長表彰(優良賞隊 各部6隊)

#### ポンプ車の部

長崎県 壱岐市消防団  
宮崎県 小林市消防団  
福井県 大野市消防団  
大阪府 羽曳野市消防団  
高知県 仁淀川町消防団  
秋田県 能代市消防団

#### 小型ポンプの部

京都府 精華町消防団  
新潟県 聖籠町消防団  
佐賀県 白石町消防団  
岩手県 洋野町消防団  
群馬県 片品村消防団  
広島県 福山市消防団

### 日本消防協会会長特別表彰(優秀選手賞 各指揮者・操作員1名)

#### ポンプ車の部

指揮者 内田智仁 (高知県 仁淀川町消防団)  
1番員 今井大揮 (富山県 砺波市消防団)  
2番員 森 健吾 (福岡県 新宮町消防団)  
3番員 長島幸輝 (長崎県 壱岐市消防団)  
4番員 西森一章 (高知県 仁淀川町消防団)

#### 小型ポンプの部

指揮者 大場裕典 (岡山県 高梁市消防団)  
1番員 難波昌宏 (兵庫県 福崎町消防団)  
2番員 二岡洋文 (島根県 安来市消防団)  
3番員 天幸竜弥 (石川県 能登町消防団)

## 閉会式

表彰式終了後、閉会式が行われ、佐藤孝義日本消防協会副会長の御発声による「万歳三唱」の後、同じく川上清記日本消防協会副会長の「閉会宣言」により、第30回全国消防操法大会の全日程を終了しました。



万歳三唱 佐藤日本消防協会副会長



閉会宣言 川上日本消防協会副会長



閉会式

## 高輪消防団女性消防隊による女性消防操法披露

東京都・高輪消防団女性消防隊による、女性消防操法が披露されました。現在、全国女性消防操法大会で使用しているD級ポンプの生産中止に伴い、令和9年度以降の全国女性消防操法大会で使用する資機材を活用した消防操法を披露していただきました。



操法開始



操作始め



放水



放水

## 地域を守る消防防災展・消防団の交流物産展

宮城県総合運動公園グランディ・21内の南側会場では、消防防災展21店舗及び交流物産展20店舗が出展し、会場は終日盛況でした。



消防防災展・交流物産展





## 第30回全国消防操法・宮城大会 激励交流会 開催 宮城へようこそ！～明日はエネルギー全開で～

(公財)日本消防協会

令和6年10月11日(金)、第30回全国消防操法・宮城大会激励交流会を宮城県仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開催しました。激励交流会は全国消防操法大会出場選手の激励と消防関係者の交流を図るとともに、消防応援団等の応援ゲストの方々にご協力をいただき、士気を高揚することを目的に開催しております。

交流会には出場選手のほか国会議員をはじめとする来賓の方々、消防応援団、消防団入団促進サポーター、地元ゆかりの応援ゲスト、消防関係者など約700名が参加されました。

開場後は、会場内で宮城県の観光PR動画を楽しんでいただき、佐藤宮城県消防協会会长の開会宣言、秋本日本消防协会会长の主催者あいさつに引き続き、村井宮城県知事(伊藤宮城県副知事代理出席)と池田消防庁長官からごあいさつをいただきました。また、消防応援団の佐藤水香さん、消防団入団促進サポーターのハイキングウォーキングのお二人、地元ゆかりの応援ゲストとして駆けつけてくれたさとう宗幸さんとマギー審司さんからそれぞれ激励メッセージをいただいた後、石巻市消防団の佐々木泰弘さんによる決意表明、登壇者全員での写真撮影が行われました。

郡仙台市長による乾杯のご発声時には、登壇している代表選手全員が拳を突き上げ、操法大会への強い意気込みを感じました。乾杯後は、交流の場に移り、菊池宮城県消防協会副会长の閉会のあいさつで、激励交流会は盛会のうちに終了となりました。

今回の激励交流会は、女性大会を除くと平成30年の富山大会以来6年ぶりの開催となりましたが、全国から集まった消防団員を中心とした消防関係者が交流を図ることで、地域間の絆を深めるとともに、操法大会に向け出場選手の士気は大いに高まりました。

### ●開会宣言



佐藤宮城県消防协会会长

### ●あいさつ



秋本日本消防协会会长



伊藤宮城県副知事



池田消防庁長官

## ●記念Tシャツ



## ●消防応援団、消防団入団促進センター



佐藤水香さん



ハイキングウォーキングさん  
(左 鈴木Q太郎さん、右 松田洋昌さん)

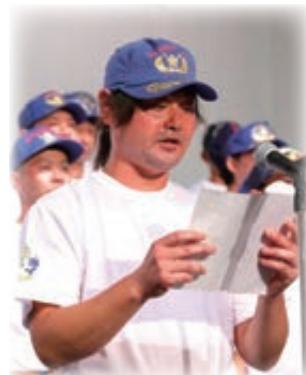
## ●地元ゆかりの応援ゲスト



さとう宗幸さん



マギー審司さん



宮城県代表 佐々木泰弘さん  
(石巻市消防団)

### ●フォトセッション(記念撮影)



### ●乾杯



郡仙台市長



### ●交流・歓談



### ●閉会あいさつ



菊池宮城県消防協会副会長

# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、芸能界、スポーツ界等の著名な方々により結成された「消防応援団」のご協力を得て、全国各地で頑張っている消防団員にエールを送るとともに、一般の方々にも消防団活動等について理解を深めてもらうため、消防団に関するラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」を放送しています。

今回は、令和6年8月から令和6年10月までに放送した出演者を紹介します。

なお、放送した番組は、日本消防協会のホームページで聴くことができます。



令和6年8月放送分に  
出演の消防応援団  
高橋みなみさん

8月3日又は4日放送



大阪府  
柏原市消防団  
部長  
浅田 泰男さん

初めてのラジオ出演で声だけでも緊張しましたが、大変貴重な体験をありがとうございました。この放送をきっかけとして消防団に興味を持ち、1人でも入団希望者があればうれしいです。これからも柏原市の消防団員として地域に貢献するために頑張ります。

8月10日又は11日放送



長野県  
上田市消防団  
団員  
國井 佳音さん

学生として県外から上田市へ引っ越し、消防団員になりました。卒業まであと半年です。学生の立場から消防団の魅力を発信し、学生団員の仲間を増やしたいです。ラジオ出演を通してこれまでの活動を振り返ることができました。貴重な経験ありがとうございました。

8月17日又は18日放送



広島県  
広島市安芸消防団  
班長  
伊木 則人さん

全国の消防団の方々と繋がれた事を嬉しく思います。全国各地でいつでも災害が起こる可能性大です。地元に根付いた消防団を通じ、平時のみ、有事に備え「被災しない」「被災させない」「ご近所さんと助け合える関係」を作り、みんなで防火防災減災に取り組んでいきます。

8月24日又は25日放送



愛知県  
春日井市消防団  
団員  
浦下 幸美さん

ママの消防団員としてラジオに出演させていただき、大変楽しく貴重な体験をさせていただきどうもありがとうございました。災害は他人事ではなく自分事。まだまだ身に付かないといけないことが沢山あるなど改めて感じました。他の地域の方ともぜひ交流してみたいですね。



令和6年9月放送分に  
出演の消防応援団  
**徳光和夫さん**

9月7日又は8日放送



岐阜県  
北方町消防団  
副団長  
**木野村 芳孝さん**

地域防災の要であり、地域住民の宝でもある我々消防団員が、全国的に減少する実態に対し、我が北方町消防団がどのように向き合っているかを今回このラジオ出演で広くお伝えすることが出来ました。ありがとうございました。引き続き、消防団活動を通して一人でも多くの同志と共に、地域を守る活動に尽力していきます。

9月14日又は15日放送



山口県  
山口市消防団  
副団長  
**多田 和子さん**

この度は、貴重な機会を頂きありがとうございました。  
徳光さんの問いかけが優しく、とても話しやすかったです。子どもたちが自分の身は自分で守れるよう、私たちが進める取組について高く評価いただき、これから活動の励みとなりました。

9月21日又は22日放送



茨城県  
取手市消防団  
分団長  
**岩倉 秀徳さん**

この度は我が消防団を取り上げていただきありがとうございました。徳光さんが上手く話しを引き出してくれたおかげで、取材中もスムーズに話すことが出来ました。全国に「わがまち取手」と「取手市26分団」をPRする良い機会になったと思います。徳光さん、ひろたさん、ありがとうございました。

9月28日又は29日放送



宮城県  
石巻市消防団  
班長  
**永沼 純也さん**

この度は出演させていただきありがとうございました。全国消防操法大会が宮城県で開催されることの大変喜ばしいことでした。また、消防団は必要不可欠な存在ですが、団員数が少ないので現状です。消防団の必要性を理解してもらえるように、今後の活動で伝えたいと思います。



令和6年10月放送分に  
出演の消防応援団  
**平野啓子さん**

10月5日又は6日放送



熊本県  
八代市消防団  
班長  
**野田 貴美子さん**

この度は、貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。今回の出演を通して、大変微力かもしれませんのが、ご視聴頂いた多くの方々が、消防団活動に対するご理解へと繋がる機会になれば有難いなと感じております。

10月12日又は13日放送



青森県  
外ヶ浜町消防団  
団員  
**林 佑紀さん**

この度はラジオ出演という大変貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

大変緊張いたしましたが、外ヶ浜町及び、外ヶ浜町消防団の特色を少しでもお伝えできていれば幸いです。これからも、地域住民の安心・安全のため、精一杯活動してまいりたいと思います。

10月19日又は20日放送



福井県  
永平寺町消防団  
副分団長  
**末永 妃都美さん**

今回、初めてのラジオ出演という事で、少し不安はありました。私たち女性消防団が普段行っている活動や取組み、永平寺町への想いなど、しっかり伝えることができとても良かったです。これからも活動を通して、安全・安心なまちづくりに努めたいです。

10月26日又は27日放送



鳥取県  
倉吉市消防団  
副団長  
**杉島 二朗さん**

この度は倉吉市消防団を紹介する貴重な機会をいただき、ありがとうございました。引き続き消防団員の負担軽減や新入団員増加のための取組みを模索しながら、地域の安全・安心を守る消防団として団員一丸となって活動に励んでまいります。

**「おはよう！ニッポン全国消防団」放送日時**

地方	県	放送局	放送日	放送時間	備考
北海道	(株) S T V ラジオ	日	5:50~6:00		
東北	青森	青森放送(株)	日	7:20~7:30	
	岩手	(株) I B C 岩手放送	日	6:15~6:25	
	宮城	東北放送(株)	土	5:00~5:10	
	秋田	秋田放送(株)	日	6:15~6:25	
	山形	山形放送(株)	日	6:20~6:30	
	福島	(株) ラジオ福島	土	5:40~5:50	
	新潟	(株) 新潟放送	日	7:40~7:50	
関東	東京	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	神奈川	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	埼玉	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	群馬	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	千葉	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	茨城	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	栃木	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	山梨	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	長野	信越放送(株)	日	6:50~7:00	
中部	福井	福井放送(株)	日	6:10~6:20	
	石川	北陸放送(株)	日	7:35~7:45	
	富山	北日本放送(株)	日	6:10~6:20	
	三重	東海ラジオ放送(株)	土	5:30~5:40	
	愛知	東海ラジオ放送(株)	土	5:30~5:40	
	静岡	東海ラジオ放送(株)・ニッポン放送(株)	土・日	5:30~5:40 6:15~6:25	一部地域は東海ラジオ放送
	岐阜	東海ラジオ放送(株)	土	5:30~5:40	
近畿	京都	大阪放送(株)	日	6:00~6:10	
	大阪	大阪放送(株)	日	6:00~6:10	
	兵庫	大阪放送(株)	日	6:00~6:10	
	奈良	(株) 和歌山放送・大阪放送(株)	土・日	6:30~6:40 6:00~6:10	一部地域は大阪放送
	滋賀	東海ラジオ放送(株)・大阪放送(株)	土・日	5:30~5:40 6:00~6:10	一部地域は東海ラジオ放送
	和歌山	(株) 和歌山放送	土	6:30~6:40	
中国	鳥取	(株) 山陰放送	土	5:30~5:40	
	島根	(株) 山陰放送	土	5:30~5:40	
	岡山	西日本放送(株)・(株) 中国放送	土・日	7:35~7:45 5:30~5:40	一部聞きづらい地域があります。 一部地域は中国放送
	広島	(株) 中国放送	日	5:30~5:40	
	山口	山口放送(株)	土	6:50~7:00	
四国	徳島	四国放送(株)	土	6:40~6:50	
	香川	西日本放送(株)	土	7:35~7:45	
	愛媛	南海放送(株)	日	6:55~7:05	
	高知	(株) 高知放送	日	6:40~6:50	
九州	長崎	長崎放送(株)	土	7:25~7:35	
	福岡	九州朝日放送(株)	日	6:15~6:25	
	大分	(株) 大分放送	日	6:45~6:55	
	佐賀	長崎放送(株)	土	7:25~7:35	
	熊本	(株) 熊本放送	土	6:50~7:00	
	宮崎	(株) 宮崎放送	日	6:20~6:30	
	鹿児島	(株) 南日本放送	土	8:30~8:40	
	沖縄	(株) ラジオ沖縄	日	6:35~6:45	

# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 (放送日 令和6年8月31日(土)又は令和6年9月1日(日))

(公財)日本消防協会

ひろたアナ：「おはよう！ニッポン全国消防団」、今日は日本消防協会の秋本敏文会長、フリーランサーで、ニッポン放送土曜朝の「徳光和夫とくモリ！歌謡サタデー」でもおなじみ、徳光和夫さんをお迎えしています。

徳光さん：新しい日本消防会館はいよいよ完成のようですね。おめでとうございます。

秋本会長：ありがとうございます。本当に多くの方にご支援頂き、またどのような内容の会館にするかについて多くの方々のご意見を頂いて、おかげさまで先日、新会館の竣工式をまことにささやかですが、行わせて頂きました。

徳光さん：この新しい会館の内容はいろいろあるようですね。

秋本会長：ええ。総面積16,000平方メートルですが、屋上に消防殉職者の慰靈碑を安置し、1階には日本消防防災情報センターという、一般の方にも自由に入って頂ける消防関係のいろいろな情報の提供センター、3階から5階に、音響もよい、いろいろなイベントに使用して頂ける1,000席のホールを設けます。そして、6階には消防関係の皆さんのお休み所を設け、各地からおいでになった方々同士でいろいろお

話ができる「たまり場」を設けます。

徳光さん：今までの会館よりはいろいろな内容があって面白そうですね。これは消防関係の皆さんともご相談したのですか。

秋本会長：はい。諸先輩や現場で活動をなさっている方などにいろいろご意見を頂いて検討してきました。私の知る限りで申しますと、世界に例がない消防の総合拠点だと申し上げてよいかと思います。そして、この会館の完成に至るまで、消防関係の方々には勿論、地方自治関係の方々にも大変なご協力を頂きましたので、心からの感謝の気持ちを込めて、皆さんによろこんで頂けるような運営をしなければなりません。

徳光さん：もう、いろいろなイベントなど計画しているのでしょうか。

秋本会長：はい。最初に、消防関係の皆さんへのお披露目の気持ちも込めまして、毎年9月に開催しています消防殉職者の慰靈祭を10月初めにこの新会館の最初のイベントとして開催し、11月には、新会館を舞台にした自治体消防制度75周年の記念式典などを行い、さらに、地域の防災体制を支えて頂いている皆さんにご参

加頂く地域防災力充実強化への動きの全国大会を開催します。このうち、自治体消防75周年記念式典は、10年程前に、東京ドームで4万人近い消防関係者にご参加頂いて開催した65周年記念イベントの今年版なのですが、公式イベントとして特に皆さんに評価して頂けるものにしたいと思っています。実は10年前の記念式典では、徳光さんに司会進行をして頂きましたので、今回は規模が小さいんですけど、大変重い式典ですので、今回も徳光さんに司会をお願いしたいと考えております。

徳光さん：いろいろありますね。私もできる限りご協力したいと思います。このところお正月の能登半島地震など、さまざまな災害がありますが、消防団員の皆さんのが減少しているそうですね。

秋本会長：そうなんです。消防団員の確保など地域防災体制強化は何とかしなければなりませんので、1階の日本消防防災情報センターでは、関東大震災や阪神大震災のほか、全国各地の消防防災活動の状況などを、一般の方々に

もご覧頂いて、消防署や消防団の活動、さらに、地域の皆さんと一緒に地域防災活動が大事だということをわかって頂けるように情報提供したいと思っています。

徳光さん：大変ですね。皆さんがんばってください。

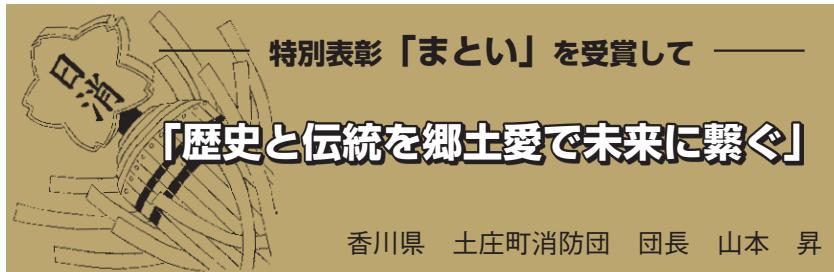
秋本会長：そして、世界中で大規模な山火事発生など災害の様相が変わっており、各国消防、それぞれがんばっていますので、そのような情報を交換する国際会議も何とかやってみたいと思っています。

徳光さん：まさに、世界に例のない消防センターの使命發揮ですね。楽しみですね。

ひろたアナ：ご苦労さまでが、日本消防のためがんばってください。  
ありがとうございました。

ひろたアナ：おはよう！ニッポン全国消防団  
今日は徳光和夫さんをゲストにお迎えし、日本消防協会の秋本敏文会長にお話を伺いました。  
ありがとうございました。





## 1 はじめに

令和6年3月8日、東京都港区のニッショーホールで行われた第76回日本消防協会定例表彰式において、土庄町消防団に消防団の最高栄誉である特別表彰「まとい」が授与されました。全国約2,200ある消防団の中からこの栄えある表彰を受けたことは、我々消防団員だけではなく消防関係者及び町民にとっても至上の喜びであります。

この度の受賞は、消防団設立から今日に至るまでの消防団員一人一人が積み重ねてきた功績が評価されたものであり、その活動を支えてきた御家族、御支援を頂いております町民の皆様をはじめとした消防団に関わる全ての方たちの並々ならぬ御尽力の賜物です。改めまして心よりの敬意と感謝を申し上げます。

## 2 土庄町の紹介

土庄町は瀬戸内海国立公園の東部に浮かぶ小豆島の西北部に位置しています。東南部は小豆島町と境を接し、東西26.9km、南北11.5kmにわたって広がり、総面積は74.39km<sup>2</sup>です。気候は、四季を通じて温暖な瀬戸内式気候であり、明治41年、ヨーロッパ地中海から初めて持ち込まれたオリーブの木がわが国で唯一小豆島だけに根付いた話は有名です。

土庄町の四大特産品として、400年の歴史を持つ「手延べ素麺」、生産量日本一の「ごま油」、江戸時代から続く「醤油」や小豆島のシ

ンボル「オリーブ」が有名です。近年では、小豆島の指定牧場だけで生産される「小豆島オリーブ牛」や小豆島近海で獲れる高級魚「小豆島島鱈」などの新たな名産品も続々と誕生しています。本町には岡山・高松へと繋がる海上交通網により、本州・四国からアクセス可能ですので、お立ちよりの際は是非一度御賞味いただければ幸いです。

## 3 土庄町消防団の紹介

土庄町消防団は、明治23年に消防組として発足、昭和14年に警防団を経て、昭和23年に消防団となりました。現在、1本部7分団で組織され、団員数は346名、そのうち女性団員は7名となっています。

消防ポンプ自動車等の設備は、消防ポンプ自動車7台、普通積載車1台、軽四積載車28台、指揮広報車1台、小型動力ポンプ35台を配備しております。その他にも各分団に救助資器材や安全装備品を配備し、消火活動や水防活動、防火啓発活動にあたっています。

## 4 土庄町消防団の活動

土庄町消防団では、「自らの町は自らで守る」の理念のもと、火災や水害をはじめとするあらゆる災害から住民を守るために、昼夜を問わず地域に密着した活動を行っています。

土庄町消防団の活動は、1月の出初式における一斉放水で、一年の安全祈願から始まり



令和6年 消防出初式一斉放水



令和6年 消防出初式和太鼓演奏

ます。3月は全分団での総合演習、4月は新入団員の研修訓練を行います。10月には隣接町消防団と合同で山林火災想定の長距離中継送水訓練を実施しています。その他にも、夏祭りや地域イベントにおける火災警戒や、秋季防火パレード、年末の防火啓発巡回など、年間を通じて精力的に活動しています。

また、消防操法技術の習得・向上にも積極的に取り組んでいます。これまでに県大会優勝2回、全国大会への出場も果たしており、訓練を通して団員間の結束を高め、消火技術の向上に励んでいます。

土庄町は海と山に囲まれた自然豊かな町であります。その反面、高潮や土砂災害など、常に自然災害と隣り合わせであります。また近年では台風の大型化や線状降水帯による豪雨被害など、全国各地で多くの災害が発生しております。本町においても平成16年に高潮が発生し、低地では広範囲の海水侵入により甚大な被害を受けています。そのため、土

庄町消防団では、町と地域と一体になって防災・減災活動に取り組んでいます。土庄町総合防災訓練では、自治会と消防団が連携して、地震・津波避難訓練を実施し、避難経路の確認や災害弱者への介助など、有事の際への備えをしています。

消防団は地域防災において要といえる存在です。今後も郷土愛の精神を後世に伝えながら、町民の安心安全のために一層精進してまいります。

## 5 おわりに

この度の受賞にあたり、格別の御高配を賜りました日本消防協会、香川県消防協会をはじめ、日頃から土庄町消防団を支えてくださっている消防関係者及び御家族の皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様の益々のご発展と御活躍を祈念申し上げ、受賞の御挨拶とさせていただきます。



隣接町消防団との合同訓練



# 「地域から信頼される消防団を目指して」

高根沢町消防団 団長 小林 修



## 1 高根沢町の紹介

高根沢町は栃木県のほぼ中央部に位置し、美しい水田が広がる関東平野を代表する穀倉地帯です。皇位継承の重要祭祀である「令和の大嘗祭」では、悠紀地方の斎田として高根沢町の圃場が選定され、「高根沢産とちぎの星」が供納されました。他にも、皇室の食料を生産している「御料牧場」があり、これに象徴されるように、おいしい農産物と豊かな自然環境に恵まれた町です。

## 2 高根沢町消防団の概要

昭和33年に発足した高根沢町消防団は、団本部及び8分団で構成されており、令和6年8月1日現在で210名の団員が活動しています。主な装備としては、指令車1台・照明車1台・資機材車1台・消防ポンプ自動車8台・小型動力ポンプ積載車2台が配備されています。

また、平成20年には大規模災害時の後方支援を想定した機能別消防団員を導入し、平成26年には同じく機能別消防団員として女性消防団員を本部分団所属とするなど、年齢や性別にとらわれない様々な活躍の場を設けるとともに、団員確保にも積極的に取り組んでいます。18名の女性消防団員のほぼ全員が救命救急の訓練を受けており、応急手当普及員の資格を所持しています。そういうことからも、平時の救急救命講習への派遣に加え、火災や災害が発生した際の負傷者の応急処置や、避難所における心理的なサポートも含めた視点での支援を期待しています。

## 3 高根沢町消防団の信念

消防団の活動には時に危険が伴います。もちろん、常に団員の安全には最大限注意を払っていますが、リスクをゼロにすることはできません。それでも、あえて危険な場所へ向かっていくという行動は、「少しでも町のため、そして地域の方々のため」という思いがあるからに他ならず、これは団員全員の思いです。

そしてその思いを実行する力として身に着けるべく、我々は日々訓練に励んでいます。

規律実技訓練、水防訓練、救命講習、ポンプ操法訓練、夏季点検や通常点検など、年間を通して多くの訓練や点検を実施することにより、いつやってくるかわからない災害に備えています。

それは様々な行動制限があったコロナ禍においても同様で、十分な感染対策を講じたうえで、消防団として必要な知識や技術を会得するための訓練は欠かさず行ってきました。

このような日ごろの弛まぬ訓練の結果、昨年度開催された第47回栃木県消防ポン



放水訓練



夏季点検



献血協力

ア操法大会に、二市二町で構成された支部の代表として高根沢町消防団第三分団が出席することができました。

また、高根沢町消防団の活躍の場は災害だけではありません。「地域から信頼される消防団」を目指し、日ごろから地域のために何ができるかを考えて活動しています。そしてそれは、消防団の活動として一般的な火災予防運動期間での啓発活動や防火パレード、地域の防災訓練やお祭りなどの行事への参加等だけには留まりません。

今年度の新たな取り組みとして、5月に実施した規律実技訓練に合わせて献血協力を行いました。きっかけは1月に発生した能登半島地震です。メディアで放送される凄惨な状況を見て、被災地の方を支援するため、そして尊い命を救うために遠方ながらも何かできることはないかと考えました。訓練に参加した団員から任意で参加者を募り、地域住民の方と合わせて56名が献血に協力しました。この取り組みは、町民の方のみに向けた活動ではありませんが、「困っている方を助ける」という意味で、とても意義のある行動だったと感じています。消防団の訓練に合わせた献血協力というのは栃木県内では初めての事例だったようで、地元の新聞にも取り上げられ、図らずとも高根沢町消防団の活動を町民の方に知つていただくきっかけになりました。

他にも、認知症サポーター養成講座を受講することにより認知症に対する理解を深め、行方不明者捜索等の現場活動に役立てるなど、町役場と連携して各種講習やイベントに積極的に参加し様々な角度から知識や技術を身に着けることにより地域に貢献できるよう努めています。

#### 4 おわりに

高根沢町消防団を語るうえで欠かすことができないのが、高根沢消防署との連携です。

ほぼすべての訓練や点検に高根沢消防署の職員の方に参加いただき、プロフェッショナルとしての指導や助言をいただいている。災害のときだけに顔を合わせる関係ではなく、日ごろの訓練から密にコミュニケーションを図ることで、有事の際もスムーズに連携することができ最大限の成果を得ることができます。常備消防と非常備消防という立場の違いこそあるものの、「地域を守る」という強い思いは共通しています。

異常気象と呼ばれる事象が多発している近年、今までの常識が通用しない場面も出てくるかもしれません、地域防災の要として、消防署をはじめとした関係機関や地域住民の方と協力し、日々精進しながらこれから活動に励んでいきたいと思います。



# 「活躍してます！ 女性消防団員！」

刈谷市消防団 団長 石原 雅裕



## 1 私が守るまち「刈谷市」の紹介

刈谷市は愛知県のほぼ中央に位置し、西三河平野西部にある衣浦湾へ注ぐ逢妻川の下流に面しています。市の中央部には最先端技術を駆使した自動車関連産業の工場が並び、活気に満ちあふれています。また、伊勢湾岸自動車道の刈谷パーキングエリアと岩ヶ池公園を一体的に整備した刈谷ハイウェイオアシスは、連日多くの人々でぎわっています。

古くは刈谷城の城下町として栄え、明治維新のさきがけ・天誅組の総裁松本奎堂や志士宍戸弥四郎、近代では、フェライトの父加藤与五郎など、時代の先駆けとなる多くの人材を輩出していました。また、国の天然記念物に指定されたカキツバタ群落で有名な小堤西池や緑豊かな洲原公園など、美しい自然環境も守られています。

## 2 刈谷市消防団の概要

刈谷市消防団は昭和25年に発足し、令和6年4月1日現在、市内を本団と21個の分団で管轄しています。団長と刈谷市を北部、中部、南部に分けた各地区を担当する副団長3名をはじめ324名（条例定数435名）の団員が所属しています。消防車両は各分団に消防ポンプ車1台（計21台）を配備しています。

## 3 刈谷市消防団の活動

刈谷市消防団の主な訓練、行事を紹介します。

4月は新入団員講習会を行っており、新入団員に対し、訓練礼式をはじめ防火衣の着装方法やホースの延長、収納方法を訓練しております。また、同時進行で消防団幹部向けに安全管理講習を行い、災害の危険性を再認識するとともに事故の防止を図っております。

6月は刈谷市消防操法競技会を開催しております。各分団が日ごろの訓練の成果を披露します。

出水期前には夏季訓練として市関係部局と水防訓練を実施しております。従来は、土のう工法をメインに行っておりましたが、消防職員の指導の下、水難救助訓練を取り入れるなど、多様化する災害に備え訓練を重ねています。

11月には秋季訓練を実施しております。市内にある自動車学校のご厚意で会場を提供していただきおり、S字カーブやクランクなどの走行訓練や、消防職員が緊急走行する車両に同乗し安全確認方法を習得するなど、実践に近い形での訓練を実施しております。



愛知県消防操法大会

2月には大規模災害を想定した実践的な訓練を実施しております。座屈建物からの救助や長距離送水訓練など、毎年訓練内容を変えるようにし、消防団のレベルアップを図っています。

3月には1年の締めくくりとなる観閲式を実施しております。市内自動車関連企業の特設自衛消防隊にもご参加いただき、市長による観閲、分列行進、各種表彰を実施した後、消防団車両全21台と特設自衛消防隊車両6両による一斉放水は壮観です。

災害に強いまちづくりのために、消防団員一人ひとりが自覚を持ち、地域防災の要として市民の期待に応えられるよう日々努力しています。



秋季訓練

#### 4 女性消防団員の活躍

刈谷市消防団には平成25年に初めて女性団員が入団して以降、現在は10名の女性消防団員が活躍しております。女性のみの分団は設置しておらず、各分団に所属し、男女の差別なく消防団活動を行っています。

令和5年度には、10月に開催された「第25回全国女性消防操法大会」に出場するため、各分団から有志で集まった女性団員7名が「刈谷市女性消防隊」を結成しました。「よっす～」を合言葉に、4月から7か月間の訓練に励んだ結果、大会では見事準優勝を収め、優秀選手賞も3名受賞す

ることができました。異なる分団に所属する団員が集まって操法大会に出場するのは初めての試みでしたが、訓練の手伝いや応援をするなかで分団同士の横のつながりが深まるなど、非常に良い影響を与えてくれました。また、今年7月に行われた「第69回愛知県消防操法大会 ポンプ車の部」でも女性団員が指揮者として出場し、初優勝を収めることができました。普段の活動を含め、刈谷市消防団として女性団員の活躍は目覚ましいものがあります。



全国女性消防操法大会

#### 5 おわりに

令和6年能登半島地震や南海トラフ臨時情報の発表は記憶に新しく、いつ地震が起きてもおかしくない状況であることを再認識させられました。当市でも大きな被害が予想されるなか、消防団員数が条例定数の75%を切る実員数になるなど、消防団員の確保に苦慮しております。消防団員の確保に向け、市内の大学において勧誘活動を実施するなど、新しい取り組みを進めるとともに、訓練内容の充実やハード面の整備も進めていきたいと思います。



# 「百万一心のまちの消防団」

安芸高田市消防団 団長 角保 雅史



## 1 安芸高田市の紹介

### (1) 地理

安芸高田市は、広島県北部の中央に位置し、面積は537.71平方キロメートルで、その約8割を森林が占めています。中心部を中国地方最大の河川である江の川が流れる緑と川のまちです。



図：安芸高田市の位置

### (2) 安芸高田市の誕生と人口

平成16年3月に6つの町（吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町）が合併して新たに市として誕生しました。人口は、合併時に3万3千人を超えていましたが、令和6年4月には、2万6千人あまりとなりました。65歳以上の割合（高齢化率）は40.9%で、過疎高齢化が進んでいます。

### (3) 毛利元就・神楽・サンフレッヂ

毛利元就是、現在の安芸高田市吉田町の郡山城を本拠地として中国地方を統一した戦国大名です。市内には、郡山城跡や百万一心碑などの史跡が多くあります。

古くから伝統芸能の神楽が盛んで、市内には22の神楽団があり、週末には市内の観光施設で公演が行われています。



写真：毛利元就と神楽

また、サッカーJリーグのサンフレッヂ広島の練習拠点でもあります。「サン（三）フレッヂ（矢）」は毛利元就の「三矢の訓」に由来しています。

### (4) 近年の災害

#### ①平成30年7月豪雨(西日本豪雨)

平成30年7月5日～7日に、記録的な豪雨が発生しました。

市南部を流れる三篠川など複数の河川が氾濫し、死者2名、行方不明者1名のほか多くの住宅被害が発生しました。

この際、当市消防団は、甚大な被害が発生した広島県安芸郡坂町で土砂撤去などの支援活動を行いました。

#### ②令和3年8月大雨災害

令和3年8月12日～14日に、平成30年7月豪雨を超える大雨となりました。

土砂崩れで死者が1名、市内中心部を流れる多治比川などの決壊で多くの住宅被害が発生しました。

## 2 安芸高田市消防団について

### (1) 組織

安芸高田市消防団の団員数は、令和6年4月1日現在で704名（うち女性団員12名）です。

6つの旧町にそれぞれ方面隊を置き、方面隊の下に全部で36の分団があります。これとは別に、本部付きとして1つの女性分団があります。

### (2) 主な活動

1月に消防出初式、文化財防火デー訓練、4月に初級・中級幹部訓練、春から秋にかけて方面隊や分団単位での各種訓練、12月28日から30日に年末夜警を実施しています。

訓練は、小型ポンプ操法訓練、実践を想定した訓練、中継送水訓練、規律訓練、水防・ロープワーク、救急救命のほか、座学研修を行うこともあります。また、自主防災組織と連携した訓練も行います。女性分団は、消火活動はせず、啓発や防災訓練、後方支援を行います。

ポンプ操法にも熱心に取り組み、平成17年と25年の2回、広島県消防ポンプ操法競技大会で準優勝しました。

昭和57年の全国消防操法大会では、安芸高田市消防団の前身である美土里町消防団が、小型ポンプ操法の部で優勝した歴史があります。



写真：広島県消防ポンプ操法大会の様子

本年9月には、広島県消防協会が主催する広島県内消防団規律訓練大会に出場しました。

### (3) 消防団車両

消防ポンプ自動車4台、水槽付消防ポンプ自動車2台、可搬ポンプ積載車44台、指揮車7台を配備しています。



写真：可搬ポンプ積載車(4WD、オートマ)

今までの車両は普通免許で運転できましたが、昨年度配備した車両からは、準中型以上の運転免許が必要となりました。今後へ向けて、普通免許で運転できる車両を検討しているところです。

## 3 いきいきと地域を支える消防団

消防団は、ごく普通の地域の青年たちが、地域防災という共通の志を持ち、消防活動だけでなく気楽に情報交換と連携を深める楽しくやりがいのある組織です。

法的には「非常勤特別職の地方公務員」ですが、「地域の青年団」的な存在もあります。

昔と違い、近年は公務員として厳しい目が向けられることが増え、一方で地域や団員同士との連携が希薄になりつつあるように思います。

毛利元就の「百万一心」の志で、公務員も青年団も関係なく、いきいきと地域を支え続ける組織でありたいと思います。



## シンフォニー（大分県） 未来の消防団 ～届け！こどもたちへの防火防災のシンフォニー～

大分市消防団 女性分団 副分団長 小野 梢

### 1 大分市消防団について

当市は、大分県の中央部に位置し、東九州の北部に広がっています。猿の生息地で知られる高崎山をはじめ美しい山々に囲まれており、大野川と大分川の2つの一級河川が南北に市域を流れ、その水は別府湾に注がれています。このような海・山・川の全てがそろった地勢に恵まれ、自然と都市が共存する優れた都市環境となっています。

大分市消防団は、1団8方面隊39分団で組織されており、実員2,058名（令和6年8月1日現在）の消防団員が在籍しています。地域に点在する180カ所の車庫詰所には、小型動力ポンプ等を積載した車両を備えるとともに、個人装備についても計画的に増強し、災害発生に備えています。女性消防団員は、平成10年に18名でスタートし、平成20年には女性分団を発足させ、総員45名の女性消防団員が在籍しています。

### 2 女性分団の活動内容について

私の所属する大分市消防団女性分団は、本部付となっており、実際の火災現場や災害現場に出向くことはありません。主な活動内容としては、応急手当の普及や

子どもたちへの防火防災教育を中心に、地域の自主防災訓練や各種消防行事への参加、団員の要望を取り入れた勉強会などを行っています。体力に自身のない私でも、地域に貢献する事が出来る魅力ある組織となっています。

私が入団した当初は主に救急講習の件数が多く、指導員資格を一人でも多くの団員が取得し、一件でも多くの講習に出向き、市民の方々へ救命の連鎖の大切さを教えていました。

昨今は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、リモートでの講習会等が取り入れられ、講習時間の短縮や出向回数が減少する傾向にあります。

そこで今、私たちは、子どもたちへの防火防災教育に力をいれています。この教育は、公立幼稚園を対象にしており、



訓練礼式の様子



わくわく消防教室



全国女性消防団員活性化石川大会での事例発表

子どもたちが楽しみながら学ぶことができ、親しみを感じてもらえるようにと、女性団員全員で「わくわく消防教室」と名付けました。しかし、使用していた紙芝居が20年近く同じもので、昨今の災害リスクに対応できていないことから、内容の見直しを行いました。令和4年度には、大分市の地域に起こりうる災害をテーマとしたオリジナル紙芝居を作成し、令和5年度から市内保育施設へも対象を拡大し、より多くの施設へ出向くようになりました。この紙芝居は、女性団員の思いが詰まっており、第28回全国女性消防団員活性化石川大会で発表し、他県の方々から多くの反響をいただきました。

防災減災については、子どものころからの教育が重要であるとされているため、女性分団でも内容を充実させて取り組んでいます。子どもたちがキラキラした目で懸命に私たちの話に耳を傾けてくれたり、明るい笑顔で一緒に「お・は・し・も・ち」と避難訓練のお約束を言ってくれたりする姿を見て、参加した団員は、女性分団に入団してよかったと実感しているのではないかと思います。

### 3 今後の活動について

先日8月8日の日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震発生に伴い、南海トラフ地震臨時情報が発表され、地震の想定震源域では、大規模地震の発生が相対的に高まっているとマスコミでも多く取り上げられていました。

今まで何度か避難所運営についての講演を聴くなどの勉強会を行ってきましたが、私たち女性分団は災害に備えた予防活動をメインとしており、実際に活動するとなると各個人が一市民として活動するしかないのが現状です。今後、いざ災害が起った時に、災害現場の最前線で活動している方々の後方支援、また避難所等でリーダーシップを取れるような実務的な知識を身に付ける必要があると考えています。

今後30年以内に70%程度という高い確立で発生が予想される南海トラフを震源とした巨大地震に備え、消防団員という立場で自信を持ってアドバイスや活動が、もっとできるような仕組みづくりを行政とともに確立できればと思います。

# 第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会を開催

(公財)日本消防協会

令和6年9月19日(木)、栃木県宇都宮市のライトキューブ宇都宮、ブレックスアリーナ宇都宮において、第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会を開催し、全国から約3,200名の女性消防団員等関係者の方々が参加しました。

全国女性消防団員活性化大会は、全国の女性消防団員が一堂に集い、日頃の活動やその成果を紹介するとともに、意見交換を通じて連携を深めることにより、女性消防団員の活動をより一層活性化させることを目的として毎年開催しています。

第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会は「とち乙女♡から広げよう！未来を担う地域防災の力」をテーマに掲げ、午前の部では全国の女性団員による事例や防火防災啓発劇等の発表がありました。午後の部では森三中の大島美幸さんによる記念講演、日本消防協会秋本会長がコーディネーターを務め活動事例発表や女性消防団員とのパネルディスカッションが行われました。

情報交流会では、宇都宮市によるキッチンカーのおもてなしがあり、栃木県の様々な郷土芸能を披露していただき、地域を越えての交流が図られ活気に溢れる大会となりました。

## 開会式



大会旗入場

那須塩原市消防団 関谷 郁子さん

那須烏山市消防団 佐藤 利奈さん

佐野市消防団 芳村 尚美さん

開会宣言

宇都宮市消防団

平山 知子さん



主催者挨拶

総務省消防庁

池田 達雄長官



主催者挨拶

公益財団法人日本消防協会

秋本 敏文会長



主催者挨拶

公益財団法人栃木県消防協会

塙田 栄一会長



開催地知事挨拶  
栃木県  
福田 富一知事



開催地市長挨拶  
宇都宮市  
佐藤 栄一市長



司会進行  
鹿沼市消防団 小泉 栄さん  
栃木市消防団 兼子 真由美さん  
小山市消防団 鈴木 美紀さん

### 活動事例発表



可児市消防団(岐阜県) 《ジブンゴト化を目指した私達の啓発活動ーアラコとトイレー》  
応急手当講習とトイレの備えについて発表していただきました。団員全員で学び、考え、工夫し「行動できる人を一人でも増やしたい」と願い活動しています。



宇都宮市消防団(栃木県) 《心肺蘇生体操～こんなときは～》  
アーティスト横原敬之さんの「どんなときも」の楽曲に乗せた振付と替え歌で、小さなお子様から年配の方々まで、誰にでも親しみやすい体操を披露していただきました。



京都市山科消防団(京都府) 《世代を超えたSDGsの防火・防災活動》  
2017年、京都市に女性消防団員による防火安全指導隊が設置されました。「やましな防災ソング」では、手話を取り入れ歌って踊れる啓発ソングを発表していただきました。



弘前市消防団(青森県) 《自分の命を守るために～備えて損なしからぶりでもいいから～》  
2001年に創立され、2011年からは防災教育に力を入れ、体験型すごろくなどを発表していただきました。



瀬戸市消防団(愛知県) 《私たち瀬戸市消防団女性分団Se toつばっさい！！》  
2005年に創立され、数々の活動、活性化大会、2019年の全国女性消防操法大会出場などをパワーポイントで発表していただきました。

### アトラクション



白鷗大学  
《ハンドベルクワイア》

### 啓発劇



紀の川市消防団(和歌山県)  
「稻むらの火」



善通寺市消防団(香川県)  
「南海トラフ地震 その日に備えて」

## 記念講演 テーマ：とちぎ×女性活躍社会×消防・防災



《大島美幸さん》

お笑いタレント大島美幸さんをゲストに迎え、栃木県の魅力や母親となってからの女性活躍社会についてのやりがいや大変さを語っていただきました。消防・防災については、女性消防団員への激励メッセージをいただきました。

### パネルディスカッション

(公財)日本消防協会秋本敏文会長がコーディネーターとなり、パネルディスカッションを行いました。色々な取り組みや課題の経験談を交えて全国各地で消防・防災分野で活躍する女性消防団員とともに、意見交換をしました。パネリストをはじめ会場からも質問が出るなど、とても活発な議論が行われました。

青森県弘前市消防団 佐藤 久仁子さん  
栃木県宇都宮市消防団 岡田 恵子さん  
愛知県瀬戸市消防団 前田 恵美さん  
岐阜県可児市消防団 荒尾 美代子さん  
京都府京都市山科消防団 浅田 真由美さん

コーディネーター (公財)日本消防協会 秋本敏文会長



### 閉会式



大会宣言  
栃木市消防団 儀同 とくみさん



お礼の言葉  
太田原市消防団 丸山 美由紀さん



栃木県消防協会 塚田 栄一會長 → 日本消防協会 秋本 敏文會長 → 長崎県消防協会 川上 清記會長



次期開催地代表挨拶  
長崎県消防協会 川上 清記會長

閉会宣言  
小山市消防団 滝澤 寿子さん



次期開催地 歓迎メッセージ披露  
第30回全国女性消防団員活性化長崎大会  
『来んね！平和の街へ 島々へ ～未来へ、  
長崎でつながる女性消防団～』  
令和7年11月13日(木)出島メッセ長崎

### 会場風景



# 防災推進国民大会 「ぼうさいこくたい2024」への参加

(公財)日本消防協会

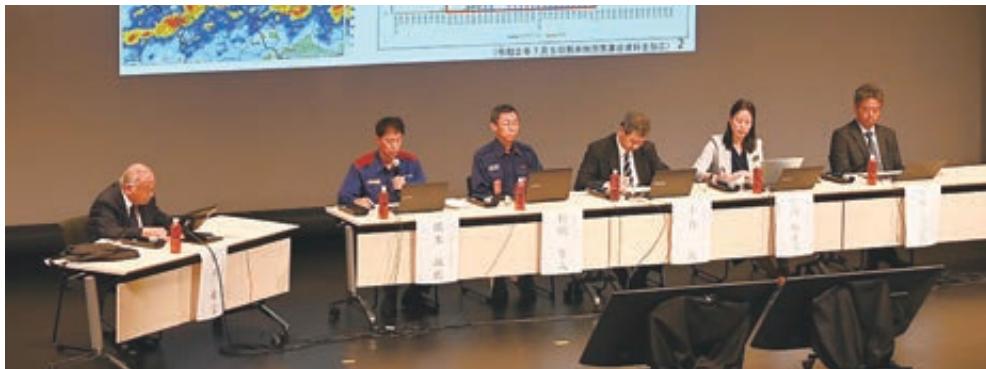
令和6年10月19日(土)、20日(日)、熊本市の「熊本城ホール」、「熊本市国際交流会館」、「花畠広場」を会場として、内閣府、防災推進協議会及び防災推進国民会議の主催による防災推進国民大会(通称:ぼうさいこくたい)2024が、「復興への希望を、熊本から全国へ～伝えるばい熊本！がんばるばい日本！～」をテーマに開催されました。

9回目の開催となる本大会は、これまでと同様に現地開催とオンライン配信によるハイブリッド形式での開催で、あわせて、国、地方公共団体、研究機関、民間企業、NPO法人など防災に取り組む約400団体が出展し、過去最大規模での実施となりました。

オープニングセレモニーは、坂井学内閣府防災担当大臣のご挨拶で始まり、その後、2日間にわたり、セッション、ワークショップ、プレゼンテーション、屋外展示が実施され、また、クロージングセレモニーでは、防災推進国民会議副議長である秋本敏文日本消防協会会长などが挨拶を行い、来年は、新潟県で開催されることが発表されました。

日本消防協会は、防災推進国民大会に第1回開催から参加しており、今回も2日目の10月20日(日)に、熊本城ホール2階シビックホール北において、「これからの大規模水害対策について－熊本水害の体験から－」と題したシンポジウムを開催し、同時にオンライン配信を行いました。

このシンポジウムは、令和2年の熊本水害の体験をふり返りながら、今後の大規模水害対策の一層の充実に資することを目的に開催したもので、秋本会長が司会進行役を務め、5名の有識者の方々にご登壇いただきました。



シンポジウムの様子  
【写真左から 秋本 橋本 松岡 小谷 竹内 宮本(敬称略)の皆様】

まず初めに、橋本誠也熊本県危機管理監から『「熊本県の対応」についての報告』と題し、令和2年の熊本水害の被害状況と熊本県の対応、救助活動の状況、教訓や課題、その後の復旧、復興の状況も含めた全体像について発表がありました。

「熊本水害の教訓として、まず洪水が起きると救助が困難になるため、とにかく逃げる、逃がすということが最優先です。次に孤立集落への対策が必要で、電話も何も繋がらないという中で、数日間取り残されたままとなるようなことも想定する必要があります。また、防災拠点や装備の

整備強化も重要です。新型コロナウイルス禍での初めての大規模災害ということで、避難所運営やボランティアの確保に大変な困難がありました。

これらの教訓を踏まえ、防災行政無線が住宅の中で聞こえない問題を解決するため、戸別受信機や防災ラジオの設置を進めています。さらに豪雨対応の訓練ということで、県と県内すべての市町村でブラインド型の図上訓練を実施しています。また、公助には限界があるため、共助として住民の避難や孤立集落での避難生活を地域で備えること、自助として一人一人が自分の身を守る行動を実践することが求められます。令和2年の水害以降、県では住民にマイタイムラインを作成してもらい、確実な避難を促しています。」とのご発言をいただきました。

次に、松岡隼人吉市長からは『事前防災の徹底』と題し、令和2年豪雨における人吉市の被災状況を振り返りながら、その教訓を踏まえた人吉市の取り組みについて発表がありました。

「大雨により我々は多くのものを奪われました。人命をはじめ、これまで生きた証や思いやり優しさ、人と人とのつながりも奪われ、とても辛い悲しい思いをしました。大切なものを失わないためには、事前防災の徹底が重要です。人吉では早めの避難を徹底しています。災害が起こるであろう時間帯から遡れば遡るほど、できることは沢山ありますが、確率は落ちていきます。しかし、1/1ではなく、1/100、1/200でもその一つを逃さないために何度も早めの避難をしています。

大事なのは日頃から自分が住む地域の災害リスクを正しく理解することです。いつ、どういう状況になった時にどういう行動をとるのかが住民一人一人に求められています。マイタイムラインの作成が非常に重要なと思っています。それに加えて、行政が適切な時期に適切な指示判断を出すことが避難行動につながります。一人の行動が一人の命を救い、みんなで備える行動が地域の命を救うというのが我々災害から経験したことです。」とのご発言をいただきました。

次に、宮本光治郎八代市消防団坂本方面隊方面副隊長からは、『令和2年7月豪雨における坂本方面隊の記録』と題し、令和2年豪雨における坂本方面隊の活動について実際の動画を使用しながら発表がありました。

「消防団として、行方不明者の捜索、支援物資の運搬、土砂撤去作業等多岐にわたる活動を行いましたが、多くの地元消防団員も被災しており、消防団としての活動が困難な状況でした。」とのご発言をいただきました。

次に、竹内裕希子熊本大学教授からは、「公共施設の被災・避難所課題調査から」と題した発表がありました。

「熊本水害での調査を行いましたが、その中でいくつかの課題が見えてきました。避難所への避難だけではなく、在宅避難、車中泊、分散避難と選択肢が増えていますが、その数の把握と支援を必要とする方たちとの繋がりに課題がありました。災害廃棄物については、平成28年熊本地震に比べて発生するスピードが早かったため、その処理が追いつきませんでした。孤立集落では、医療を受けられない、過疎地



橋本誠也 熊本県危機管理監



松岡隼人 人吉市長



宮本光治郎 八代市消防団  
坂本方面隊方面副隊長



竹内裕希子 熊本大学教授

域や山間地域までボランティアが来るのが難しいという問題がありました。また、特別養護老人ホームで被災された入居者を分散して受け入れてもらう際のマッチングに課題がありましたので、これらを教訓として次の災害に生かしく必要があります。」とのご発言をいただきました。

最後に、小谷敦総務省消防庁国民保護・防災部長からは、『大規模水害に備える』と題した発表がありました。

「戦後しばらくは1,000名を超える死者・行方不明者がいる風水害が頻発したが、政府は伊勢湾台風を受けて災害対策基本法を制定し、また災害が起きたときに災害対策を見直し、近年、風水害による人的な被害は少なくなっています。ただ、最近の雨の降り方が昔とは違うと感じる方が多いと思いますが、データでも裏付けられており、実際に雨の降り方が激甚化、頻発化しています。令和元年東日本台風は、昭和33年に1,269名の死者・行方不明者を出した狩野川台風よりも広い範囲で多くの雨が降りましたが、人的被害は1/10に止まりました。狩野川放水路や首都圏外郭放水路、渡良瀬や鶴見川の多目的遊水地等のハード面の対策によって、被害を一定程度抑えられました。被害を減らすのにはハード面の対策のほかに防災情報の提供も重要です。この時気象庁は狩野川台風を例に出して危険を訴えました。また、気象庁は令和3年6月から線状降水帯の発生を知らせる運用を始め、令和4年からはブロック単位で、今年からは都道府県単位で半日前に予測を出す、そして令和11年には市町村単位で予測を出すように、とステップコンピューターなどを活用して情報を早く正確に出す努力をしております。気象庁では台風の特徴を伝えるきめ細かな、わかりやすい情報提供に向けた検討も進めています。政府としてはこれらハード面の対策、気象観測体制の強化、防災情報の発信だけでなく、消防装備・資機材の充実、防災教育の推進などを進めています。ただ、最後は個人個人がしっかりと情報を理解し、早めに避難することを徹底していかなければいけないと思っており、さらなる取り組みを進めていきたいと思っています。」とのご発言をいただきました。

5名の方の発表を受け、秋本会長からは、「地球環境全体の変化に伴い災害の様相が変わっています。熊本豪雨でも人吉市や八代市での水害が生じたその雨は、水は一体どこに、いつ降ったものかというと遠く離れた山の中で夜中に降った雨でした。そうするとその状況を把握できるかどうかによって、避難等のタイミングを失すことなくできるということになるかもしれません。そのような意味でも災害情報は非常に重要なっています。

私たちの新しい日本消防会館が先日完成しましたが、1階には日本消防防災情報センターを設けました。そこでは、100年前の関東大震災、30年前の阪神淡路大震災の映像情報を掲げると同時に、諸外国の例や全国各地のいろんな取り組みなどの情報もご覧いただけるようにしています。これから先もっと幅広い情報、あるいはいろんな災害体験というのをご覧いただけるようにしながら、将来に向かっての防災減災に役に立つような機能を果たせるようにしていかなければなりません。」とのまとめがあり、シンポジウムは閉会しました。

なお、このシンポジウムについては、『ぼうさいこくたい』ホームページ上で録画動画の視聴ができます。また、各パネリストの資料は日本消防協会のHPに掲載しております。



小谷敦 総務省消防庁  
国民保護・防災部長



秋本敏文 日本消防協会会長

[https://www.nissho.or.jp/  
bosaikokutai/index.html](https://www.nissho.or.jp/bosaikokutai/index.html)

ぼうさいこくたい2024in熊本

検索



# 令和6年度(第24回)「防火防災に関する」作文コンクールの審査結果について

(生協)全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年全国の中学生を対象とした「防火防災に関する」作文コンクールを行っています。

「皆さんとともに、地域を守る消防団」を作文のテーマとし、各都道府県の支部から、選抜された作品39点の中から、当共済会において厳正な審査を行った結果、最優秀賞に愛媛県今治市立大西中学校1年 渡邊 太晴さんの作品が選ばれました。

今年度もたくさんのご応募ありがとうございました。

佳作以上の10作品は、「防火防災に関する」作文コンクール入賞作品集にして、全国の消防関係機関、市町村役場、支部推薦中学校等へ配布いたします。

## 最優秀賞 (1名)

愛媛県 今治市立大西中学校 1年 渡邊 太晴さん

## 優秀賞 (3名)

宮城県	七ヶ宿町立七ヶ宿中学校	3年	佐藤烈士さん
鹿児島県	薩摩川内市立平成中学校	2年	城戸優理菜さん
埼玉県	三郷市立栄中学校	1年	深江璃皇さん

## 佳作 (6名)

栃木県	下野市立南河内小中学校	7年	上野晴之佑さん
宮城県	登米市立津山中学校	3年	高橋かりんさん
山梨県	北杜市立甲陵中学校	2年	茂手木志保さん
青森県	青森市立沖館中学校	3年	高森柊吾さん
富山県	砺波市立庄西中学校	2年	飯田倖媛さん
福岡県	太宰府市立太宰府東中学校	1年	日野こはるさん

## 最優秀賞

愛媛県

今治市立大西中学校 一年

渡邊太晴

### 僕の父は消防団員

僕の父は、消防団員です。実際に火事の現場や大雨の浸水被害の対応をするため、何度も出動しています。火事や災害が実際におきた時だけでなく、日常からの備えが大切だと父は教えてくれました。

月に二回、消防用具の点検として、近くの川まで消防車を走らせていき、水をポンプで吸い上げることができるかどうか、車が走るかどうかなど、細かい確認をしているそうです。父は消防士ではなく、消防団員なので、消火のプロではありません。会社員として、僕たち家族のために働き、休日や夜間など、空いている時間を消防団員としての活動に費やしています。僕たちの町は、父のような消防団員の皆さんによって支えられているのだと思います。

消防団員の皆さんの活動は、本当に大変だと思います。僕は、自分に何ができるのかを考えてみました。僕には消火を手伝うことはできません。災害はいつ起ころか分かりません。でも、僕には火事をおこさないよう心がけることや、災害がおきた時のために、備蓄品のチェックをしたり、防災リュックの準備をしたり、家具が倒れないように固定する等、災害に備えることができます。

僕たち市民一人ひとりが災害に備えたり、火事をおこさないよう

に火の元に気を付けたりすることは、消防団員の皆さんの負担を減

らすことにもつながると思います。

僕がとても印象に残っていることは、冬休み中の夜、夕食の後、父が消防団のつめ所に出かけていたことです。夜、何のために出かけているのか不思議でした。仕事が休みならば僕と一緒に遊んでくれたらしいのにと思ったこともあります。遊びに行くのならば僕も一緒に連れて行ってくれたら良いのにと思つたこともあります。でも、父は仕事でも遊びでもなく、実際には、夜警に出かけていたのです。夜警とは、夜、消防団などが防火パトロールをすることです。火事がおきてから動くのではなく、未然に防ぐことも消防団の大切な役割なのだと知りました。

僕の父は、とてもかつて良いと思いました。地域の人のために動くことができる父を僕は尊敬しています。火事の現場は、ものすごく恐ろしいものだそうです。でも、少しでもだれかの力になるために頑張っているそうです。

僕は、大人になつたら父のように消防団員として地域に貢献できる立派な人になりたいです。僕が知っている防火防災の知識を友達や親せきなどに伝えて、子どもの今でもできる活動をしていきたいです。僕は、この町が大好きです。



うちの

# 名物団員



北海道

北海道

栃木県

喜茂別消防団 団員

レ・ヴァン・ズエット

喜茂別消防団からは外国人消防団員のレ・ヴァン・ズエット団員を紹介します。

喜茂別町は札幌の南側に隣接し、羊蹄山(通称蝦夷富士)の麓で観光地に囲まれ、農業が盛んな町です。

ズエット団員はベトナムから日本の文化が好きで来日、分团长でもある自身が勤める養豚場会社社長に誘われ地域の安心・安全を守る活躍をしたいと消防団に入団、各訓練や団活動に日々積極的に活躍中です。



\*後列の右から二人目が「レ・ヴァン・ズエット団員」です。

余市消防団 団員

川村 憲吾

北後志消防組合 余市消防団からは川村団員を紹介します。

川村さんは農家をやりたくて余市町に移住、消防士から農業経営者へ転身し消防団に入団。

余市町はニッカウヰスキー北海道工場余市蒸溜所の知名度はもとより、近年はワイン用ブドウの生産が盛んです。緑が多く自然豊かな環境の中で家族と一緒に楽しく過ごすことができています。

若年層を中心  
に農業への道を  
進む方も増えて  
きていますの  
で、消防団員の  
入団促進PRも  
機会を増やし魅  
力を伝えていき  
ます。



高根沢町消防団 団員

古口 郁美／長谷 柚香

高根沢町消防団からは、古口郁美団員と長谷柚香団員を紹介します。

応急手当普及員の資格を持つお二人は、日ごろから救命の講師として活躍し地域に大いに貢献してくれています。また、誰よりも明るく前向きに物事に取り組むその姿勢は他の模範であり、団に欠かせない存在です。

そんなお二人の夫とともに消防団員。家族一丸となって地域の安全を守るお二人の今後の活躍に期待しています。





## 刈谷市消防団 第18分団

部長 松尾 悠紀／班長 松尾 健斗

愛知県の刈谷市からは松尾悠紀さんと松尾健斗さんを紹介します！

悠紀さんは第25回全国女性消防操法大会へ出場した際に2番員をつとめ、刈谷市女性消防隊のエースとして準優勝に大きく貢献しました！ポンプ車操法で競う市の操法大会でも、3番員で優秀選手賞を受賞するなど、ストイックに取り組む姿勢は全団員の模範となっています！

健斗さんも市の操法大会で優秀選手の受賞歴があり、分団長を務めるなどとても頼りになる消防団員です！

実はお二人、消防団での出会いがきっかけで結婚されました！

ご夫婦で刈谷市の安心、安全を守っているとても頼もしい存在です！



## 八百津町消防団 分団長

土谷 成生

八百津まつりと消防団をこよなく愛する土谷成生さんは、地域の安全と伝統を守る熱血漢です。長年にわたり消防団員として活躍し、豊富な経験を活かして祭りの運営や防災活動に尽力しています。彼の献身的な姿勢とリーダーシップは、地域住民から厚く信頼されており、八百津町の誇りとなっています。

尾道市消防団からは、桑原孝文副団長を紹介します。

桑原さんは、自然に囲まれた尾道市原田町で平成9年に「宝土窯」を開窯し、その後、尾道市美展・広島県美展入賞、第86回光風会展入選などを受賞されています。

現代社会における慰めと安らぎを形にしていきたいと日々土に向かいながらも、消防団員として30年の長きにわたり地域の安全・安心のため、災害・火災に立ち向かっておられます。



「新尾道駅 展示作品」



## 尾道市消防団 副団長

桑原 孝文

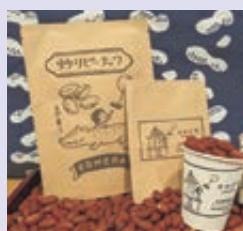
## 安芸高田市消防団 甲田方面隊 団員

レオネル ダビッド マイア

広島県安芸高田市消防団から、レオネル ダビッド マイアさんを紹介します。

約12年前、結婚を機に東ティモールから移住し、自然農法でピーナッツを栽培。市のふるさと納税の返礼品にもなっています。

移住と同時に消防団員から勧誘されて入団。日本語もよく分からず不安でしたが、「日本では地域のみんなが協力して火事や災害に対応しているところがいい。」と、消防団を盛りあげてくれています。



# 消防団の広場

岐阜県

## 「持続可能な消防団をめざして」

川辺町消防団  
団長

日下部 宏暁



川辺町は町域の約7割を森林が占める自然豊かな山のふもとのまちです。町の中央を飛騨川が南北に流れ、周辺一帯の散策道や公園などでは、多くの人が余暇を楽しんでいます。まちづくりの核となるダム湖の周辺整備も完了し、ボート競技に絶好の自然条件を備え、日本中の愛好家にその名が知られています。

また近年は、町内の7つの低山を「川辺セブンマウンテン」と称し、低山登山のまちとして人気となっています。中でも遠見山の見晴らし岩からの眺望が「岐阜のグランドキャニオン」としてインスタなどで話題を呼んでいます。

川辺町消防団では、定員174名のうち171名が在籍しており充足率は高いものの、当町においても新入団員の確保には大変苦慮しております。現団員の任期も長くなっています。このままでは数十年もすれば、消防団そのものが存続不能になってしまい、地域を守れないと考え、5年前から町と町消防団が連携し、団員の負担軽減や待遇改善などの消防団改革に取り組んできました。



県防災ヘリとの連携訓練

具体的には、

- ① 町操法大会の廃止 操法大会に向けた長期間の訓練が団員とその家族に大きな負担になっていると考え、その対策を検討していた折、コロナ禍により操法訓練そのものが実施困難となった事から、町独自の訓練マニュアルを作成・実践した所、少ない負担で相応の効果が得られる見通しが立った為、町操法大会を廃止する流れに至りました。なお、中には操法大会に熱心な団員もおりましたので、希望があれば県大会に出席することも可能としています。
- ② 実践的訓練の充実 これまで操法大会に向けた番員ごとの専門的訓練が行われていましたが、現在は消火活動において全ての団員がどの役割でもこなせるように取り組んでいます。また、地震や豪雨災害など自然災害を想定した訓練にも力を入れ、チェーンソーや油圧救助機器の取り扱い教育の実施計画もしています。
- ③ 処遇や資格制度の充実 その他にもローンや小型船舶、準中型自動車などの資格取得に対する補助制度や詰め所へのエアコンの設置を完了させるなど、待遇改善や人材の育成に努めています。

川辺町では今が変革のチャンスと捉られ、団員の負担軽減とやりがいの向上を図ってきました。今後も古くからの習わしだけで行っている行事を廃止するなどの改革を継続する事で、まずは現団員に負担の低減を実感して頂き、それが未来の若者に波及していく事でひとりでも多くの方に加入して頂ける消防団となる様に努めています。



地震を想定した救助訓練

2024年度 全国統一防火標語

## 「守りたい 未来があるから 火の用心」

### 令和6年12月の日本消防協会関係行事

12月7日(土) 全国消防職団員の集い(ニッショーホール)

12月26日(木) 防火ポスター・作文コンクール表彰式(全国消防人共済会)

### 編集後記

つい最近まで半そでで過ごしていたことが嘘と思えるくらい、季節らしい寒さとなりました。皆様体調はいかがでしょうか。

11月は紅葉が見頃になり、美しい自然に目を奪われる季節です。皆様もこの時期しか味わえない景色や食など、楽しんでいただきたいと思います。

さて、先月行われました第30回全国操法大会(宮城県)は晴天に恵まれ、盛大かつ、華やかに、無事終了できることは大会関係者のご尽力のたまものと思います。担当研修生は春から準備し、大変な苦労がございましたが、無事に大会が終了し安堵しています。ご協力頂いたOBの先輩方、宮城県の各関係者の皆様、本当にありがとうございました。当日の大会の模様は掲載記事をご覧頂きたいと思います。(T.I.)

「ほうさいこくたい」の会場は、地震からの復旧が進む熊本城のすぐ近くでした。本丸をはじめ見学ルートが整備され、多くの観光客が訪れていましたが、石垣が崩落してモルタルで仮補修している個所などが、まだ数多くありました。聞けば完全な復旧まであと30年もかかるそうです。崩れた石の数はざっと10万個。一つ一つ番号を振って、地震前の写真などを参考に積み直していくそうで、考えただけでも気の遠くなる作業です。専門の石工の方々の確保にも苦労しているとのこと。

首里城火災とも共通しますが、歴史的建造物は、その価値を損なわないように防火・防災対策を講じなければなりません。そのためはどうしても脆弱な面があります。一方で、被災地の方々の心の拠り所にもなっていることから、少しでも早い復旧が望されます。修復途上の熊本城を見ながら、強靭化の難しさを考えされました。(T.Y.)

### 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

### 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十七卷第十一号  
令和六年十一月五日印刷  
令和六年十一月十日発行

編集人 米澤 健  
発行所 (公財)日本消防協会  
印刷所 東京都港区虎ノ門二十九二十六  
電話 ○三(363)九四〇一(代)  
株式会社アイネット  
電話 ○三(3549)五六〇〇

令和六年十一月十日発行

日本消防

第七十七卷第十一号

# 消防人の 火災共済

## 風水雪害等共済金 補償倍率UP 300倍から 750倍へ

まさかの時お役に立ちます。  
掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い 1500倍補償

B型火災共済 消防団 毎に皆で加入

掛け金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害にも対応!! 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。

お支払 対象 ●火災共済金 火災・落雷・爆発・破裂  
●風水雪害等共済金 風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等  
●地震等災害見舞金 地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

# 消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%)、配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万元(ゆうちょ  
銀行は五千円)から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金(6種類)又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金(脱退一時金)  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

(パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先)

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

(公財)日本消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号

TEL.(03)6263-9401 (代表)

<https://www.nissho.or.jp>